

平成30年度 江南区長マニフェスト

江南区長 米山 弘一

マニフェスト

都市的なたたずまいと緑豊かな田園・自然がバランスよく共存している地域特性や、地域が持つ宝、地域資源を活かすことでまちの魅力・活力を向上させるとともに、区民の皆さんの安心安全で健康な生活を守ることで「笑顔あふれる江南区」を実現します。

この方針のもと、江南区は今年度、次の3つの取り組みを重点的に実施します。

1. 「磨く」：地域が持つ宝を磨いて可能性を引き出し、まちの活力向上につなげます。
2. 「活かす」：地域資源を活かし、まちの魅力を高めます。
3. 「守る」：区民の皆様の安心安全で健康な生活を守ります。

マニフェスト実現に向けた取り組み

1「磨く」：地域が持つ宝を磨いて可能性を引き出し、まちの活力向上につなげます。	
現状（課題）	<ul style="list-style-type: none"> ○農村集落では農業従事者の高齢化に加え、農業の担い手不足が深刻となっています。 ○市街地と農地が近接し、消費者にとって豊かな農産物が身近に感じられる環境をさらに活かしていく必要があります。 ○区内各地区では藤五郎梅や梨、越後姫、十全なす、スイートコーンといった農産物が生産されていますが、地域ブランドとしての知名度をさらに高める必要があります。 ○江戸時代に誕生し一度消滅したものの平成17年に復活した江南区亀田発祥の亀田縞について、地域ブランドとして発展させるための支援が必要です。
課題解決策	目標 <ul style="list-style-type: none"> ○区が誇る豊かな農産物や亀田縞などの伝統技術のブランド力向上と魅力発信に取り組みます。
	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化や後継者不足に対応し、将来を見据えた地域農業の進展を図ります。 ○地域特産品を育成することにより収益性の高い農業経営を目指すとともに、知名度アップに向け取り組みます。 ○亀田縞を地域ブランドとして発展させ、認知度を高めるとともに、国内外への販路拡大を図ります。
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○地域農業の将来像を描く、人・農地プランの取り組みを進めます。 ○特産品をモチーフとした江南区親善大使キャラクターを活用し、消費者が「農」に親しむ機会を提供します。 ○江南区亀田の特産である藤五郎梅の高品質化に向け調査・研究を行います。 ○亀田縞の本来の風合いを残しながら、若者などにも受け入れやすい色柄などを取り入れるなど、国内外のニーズに応じたブランド展開を図ります。

	主な取組の指標達成状況	設定数	4	達成数	4
取組結果	<ul style="list-style-type: none"> ○人・農地プランの推進により、集落での話し合いが新たに4団体（天野・鍋湯新田・鶉ノ子・駒込）で始まり、累計23団体になりました。 ○市民向けに「農」に親しむ機会を12回提供しました。 ○藤五郎梅の高品質化に向け新潟大学と共同研究を行っています。また藤五郎梅の加工品開発を支援し、新たに2件が販売事業化されました。 ○市内の店舗が若者向けに亀田縞の風合いを生かした自社製品の製作・販売を開始し、好評を得ています。また、国外向けには「EDO STRIPE（エドストライプ）」をテーマに香港や欧米で見本市に出展し、ブランドイメージの浸透を図りました。 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も地域農業の将来を描く人・農地プランをできるだけ多くの集落で話し合いを進め、農地の集積を進めることで農業の振興を図ります。 ○引き続き、市民向けに「農」に親しむ機会を提供します。 ○藤五郎梅の高品質化に向けた調査・研究を進めるとともに、梅加工品の開発を支援します。 ○亀田縞ブランド推進協議会を核にしてPR力・知名度・販売力といったブランド展開を強化する取り組みを支援します。 				

平成30年度 江南区長マニフェストに掲げた取組の指標一覧表

1 「磨く」地域が持つ宝を磨いて可能性を引き出し、活力向上につなげます。

No.	担当所属	組織目標	主な取組(事業)	指標				評価	
				項目(単位)	H29実績	H30目標	H30結果		補足・参考指標
1	産業振興課	高齢化や後継者不足に対応した、将来を見据えた地域農産物の進展を図ります。	・人・農地ブランド推進事業	農地中間管理機構を活用し、農地異種・交換を実施または手続きを進めている団体数(累計)	19	21	23	うち事業実施に全った団体数 11 (H26年度～H29年度の合計)	達成
2	産業振興課	農産物の6次産業化と農商工連携を推進し、地域特産品の育成により収益性の高い農産経営の実現を目指すとともに、江南区親善大使キャラクターを活用しながら、江南区の知名度アップを図ります。	・「農」に親しむ」事業の展開	「農」に親しむ機会の提供回数		7	12	収穫体験・加工体験 5回 学校給食との連携 1校 笑顔の加工品づくりキャンペーン 1回	達成
3			・梅の産地活性化の推進	梅の加工品の販売の事業化(累計)	5	7	7		
4	産業振興課	地域資源を活用した農・商・工産の連携と創造的な農産物の育成を推進します。	・亀田郷地域ブランド化の推進	地域資源としての亀田郷の活用に関わる事業者数(累計)	19	22	24	・亀田郷ブランド推進協議会関連事業者数	達成

2 「活かす」：地域資源を活かし、まちの魅力を高めます。

現状 (課題)	<p>○区内には古くから多くの伝統芸能や祭りなどが受け継がれていますが、後継者不足に加え、情報発信の不足による知名度の低さが見られます。</p> <p>○道路、鉄道など充実した交通網や、拡張意欲の高い充実した商工業、豊かな住環境など地域資源を活かしきれていると言えず、就職等を理由とする若者の県外流出が多くなっています。</p> <p>○(仮称)江南駅の利用見込みアンケートでは、バスの接続や駐輪場の整備などにより1日当たり約2,100人と一定の利用者が見込めることが判明しました。</p> <p>○交流人口の拡大や超高齢社会への対応のため、マイカーのみに依存することのない地域内公共交通を形成する必要があります。</p>		
	目標	<p>○区内の伝統芸能や祭りなどの観光資源を最大限活かします。</p> <p>○交通網などの区の強みを活かした雇用創出・居住促進・公共交通の充実を図ります。</p>	
課題 解決策	<p>○観光資源を発掘・深堀りし、それぞれを組み合わせることで魅力をさらに高め、まちの活性化につなげます。</p> <p>○区内主要団体等による「江南区まちづくり協議会」の知見を活かし、市街地、農村部など区内各地域の特長を活かした有効な人口減対策について「雇用創出」「居住促進」「公共交通」の観点から検討します。</p> <p>○市内最大の本数を誇るJR信越本線の可能性をさらに引き出すため、(仮称)江南駅の実現に向けた取組みを進めます。</p> <p>○マイカーに過度に依存せず、だれでも移動しやすい交通環境整備を進めるため、区バス・住民バス、JR信越本線などの連携を強化し、利便性の向上を図ります。</p>		
	主な 取組	<p>○観光資源の発掘、洗い出しと深堀りを行い、観光的な側面から効果的に組み合わせたツアールート等の提案やPRを行います。</p> <p>○新たな工業用地として検討されている区内4地区の工業用地提案箇所の実現に向け「江南区まちづくり協議会」と連携して取り組みます。</p> <p>○(仮称)江南駅が設置された場合の効果や、さらなる効果を引き出すための方策等について検討します。</p> <p>○区バス・住民バスの充実に向け、地域住民同士が将来の生活交通のあり方を考えるワークショップを開催します。</p>	

取組 結果	主な取組の指標達成状況	設定数	4	達成数	4
	<p>○区内に観光資源を持つ、または、その情報発信・活用に関わる企業・団体に協力を依頼し、連携して観光関連事業を実施することができました。</p> <p>○区内の伝統芸能や祭りなどに対する二次交通の手配と「江南区彩(再)発見フォトコンテスト」を実施しました。また、横越地区を舞台に「歴史を学ぶ(まち歩き)」と「紅葉(北方文化博物館ライトアップ)」、「知られざるフォトスポット」を組み合わせたフォトツアーを実施しました。</p> <p>○「江南区まちづくり協議会」と、新たな工業用地の確保に向けて情報共有を図るとともに、(仮称)江南駅の実現に向けて、駅設置の効果を最大限発揮するための条件等について協働で調査・分析を行い、当該地区に新駅を整備する必要性や周辺開発として望まれる分野を明らかにしました。</p> <p>○両川・大江山地区において、将来の生活交通のあり方を住民同士で検討するワークショップを開催し、地域に真に必要な交通体系の検討を進めました。</p>				

今後の方針

- 観光関連事業への協力・連携に向け、区内企業や各種団体への働きかけを継続します。
- 引き続き、区内の観光資源の発掘および深掘りと、その組み合わせにより魅力を高めるとともに、観光資源を積極的に発信し、集客と交流人口の拡大に取り組みます。
- 「雇用創出」「居住促進」「交通環境」の促進について、「江南区まちづくり協議会」と連携し、必要に応じた支援を行うとともに、協議会で明らかにした、区の強み・優位性や江南駅の必要性・効果などを区内外へ情報発信します。
- 地域住民同士が将来の公共交通について考えるワークショップを引き続き開催（1地区）するとともに、既に検討を開始した両川・大江山地区にも継続した支援を行うことで、地域の生活交通のさらなる充実につなげます。

平成30年度 江南区長マニフェストに掲げた取組の指標一覧表

2「活かす」：地域資源を活かし、まちの魅力を高めます。

No	担当所属	組織目標	主な取組(事業)	指標				評価	
				項目(単位)	H29実績	H30目標	H30結果		補足・参考指標
1	産業振興課	観光資源の発掘及び深掘りと、その組み合わせにより魅力を高め、新たな観光資源として活用を図ります。	ぐるっと巡って発見・体験ツアー	観光資源を持つ、または、その情報発信・活用に関わる企業・団体数(累計)		10	10	協力団体・企業による連合体を目指す	達成
観光関連事業の実施数					3	4			
3	地域総務課	区ビジョンまちづくり計画の着実な推進を図ります。	江南区未来づくりプロジェクトの推進	江南区未来づくりプロジェクトの推進	江南区まちづくり協議会設置 ・新たな工業用地確保の観点から区の優位性等を検証	江南区まちづくり協議会開催 ・(仮称)江南駅が設置された場合の効果等の検討	江南区まちづくり協議会開催(2回) ・(仮称)江南駅が設置された場合の効果等に関する調査・分析完了	【総合的に評価】 ・(仮称)江南駅ができた場合の効果と、その効果を最大限引き出すための方策を検証する。(周辺のバス路線の再編など)	達成
4	地域総務課	区内公共交通のさらなる利便性向上に向け、利用者のニーズなどに合わせ区バスの運行内容を見直すほか、住民バスとの連携を図ります。	公共交通運行情報の適切な提供 ・使いやすい公共交通会議の開催 ・地域住民との公共交通のあり方に関するワークショップを2地域で開催	区バス利用者数(人)	87,361	88,000	89,301		達成

3 「守る」：区民の皆様の安心安全で健康な生活を守ります。

現状 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ○20年後の将来人口推計では、各世代の人口構成比をみると地区ごとに大きく内容が異なることから、少子化対策など地区の実情を踏まえた細かな対策が必要です。 ○急速に進む超高齢化のなか、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる環境づくりが急務となっています。 ○要介護認定率が他の区と比べ高いことから、介護予防の取組を充実させることが必要です。 ○三方を河川に囲まれた地域特性を踏まえた安心安全なまちづくりが求められる中、自主防災組織率が8区で一番低い状況となっています。 	
課題 解決策	目標 <ul style="list-style-type: none"> ○防災・防犯・交通安全の向上に向け地域と連携して取り組みます。 ○高齢者や子どもなど、すべての区民の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少を可能な限り抑えるため、子育て支援を充実し子どもを産み育てやすい環境づくりを進めます。 ○福祉分野だけでなく、あらゆる分野との連携による地域包括ケアシステムの構築に向けて地域や関係機関との仕組みづくりと健康寿命延伸に取り組みます。 ○地域防災力の維持向上に向け「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を醸成し、自主防災組織結成率の向上につなげます。 ○昨年度の除雪対応を踏まえ、積雪時における生活道路の確保を一層高めるため、除雪作業後の二次対応（堆雪、排雪）を改善します。
主な 取組	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な相談先である「妊娠・子育てほっとステーション」の周知を強化します。 ○江南区内の3つの支え合いのしくみづくり会議の活動を継続し、住民による支え合いの取組を拡充します。 ○高齢者見守り訪問による健診受診勧奨と地域のお茶の間での健康教育を実施します。 ○自主防災組織のメリットが見える化し、結成率向上に向けた説明会等を開催します。 ○小学校区単位をモデルに、除雪作業後の二次対応に向けた改善計画を作成します。 	

	主な取組の指標達成状況	設定数	6	達成数	6
取組 結果	<ul style="list-style-type: none"> ○母子健康手帳の交付や新生児訪問などで個別案内することで、「妊娠・子育てほっとステーション」の周知を強化しました。 ○住民による支え合いのしくみづくり会議で、地域のお茶の間の開設など8つの新たなしくみを整備しました。 ○高齢者見守り訪問において3年連続健診未受診の方に直接受診勧奨を行いました。 ○29か所の地域のお茶の間で健康教育を行いました。 ○未結成自治会に自主防災組織の必要性和結成を働きかける啓発文書を配付するとともに、現状の問題点や結成意向などのアンケート調査を実施し、意向がある自治会に結成に向けた働きかけを行いました。また、アスパークまつり等のイベントやコミ協等の防災訓練において防災の啓発を行うことで地域防災力の向上を図りました。 ○交差点における歩行者だまりや狭隘道路における人力除雪部隊の結成や新たな排雪場所5か所を確保する改善計画を作成し、今冬の除雪体制を構築しました。 				

今後の方針

- 引き続き身近な相談先「妊娠・子育てほっとステーション」の周知を強化し、子どもを産み育てやすい環境づくりを進めていきます。
- 地域包括ケアシステムの構築に向け、支え合いのしくみづくり会議の活動を継続し、住民による支え合いの取組を拡充していきます。
- 平成28年度から実施してきた高齢者見守り訪問は区内全域で実施したことから、今年度で終了しますが、今後は地域での見守り活動につなげていきます。
- 引き続き地域のお茶の間で健康教育を実施するとともに、健診受診勧奨も実施していきます。
- 引き続き全自治会の自主防災組織結成に向け、自主防災組織の必要性と結成に向けた説明会を開催するとともに、自主防災組織の結成が難しい自治会を救う方法として、コミ協や自治会連合会などに地域全体を傘下とする大きい防災組織となってもらえるか働きかけます。
- 引き続き改善策を講じながら、より効率的な道路除雪の実施を目指します。

平成30年度 江南区長マニフェストに掲げた取組の指標一覧表

3「守る」：区民の皆様の安心安全で健康な生活を守ります。

No.	担当所属	組織目標	主な取組(事業)	指標			評価		
				項目(単位)	H29実績	H30目標		H30結果	補足・参考指標
1	健康福祉課	切れ目のない子育て支援の充実を図り、子どもたちが健やかに育つまちを実現します。	・身近な相談先である「妊娠・子育てほっとステーション」の周知(マグネット作成と配付)	・「妊娠・子育てほっとステーション」の認知度(%)	-	60	62	・高齢者の相談窓口である地域包括支援センターの認知度 64.6%(H28新海市健康と暮らしの調査)	達成
2	健康福祉課	住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域で支える仕組みづくりを達成します。	・江南区内3つの支え合いのしくみづくり会議(協議体)による、地域資源を活用した新たな支え合いのしくみづくりの整備	・整備実績数	5	6	8		達成
3	健康福祉課	高齢者の健康状態を把握し、受診率向上により、早期発見と重症化予防を図ります。また、生活習慣病の予防についての知識の普及により、健康寿命の延伸を図ります。	【健康寿命の延伸重点事業】 ・高齢者見守り訪問の実施における健診の受診勧奨 ・地域のお茶の間での健康教育(いきいきヘルシー講座)の開催 ・保健師、運動普及推進委員、食生活改善推進委員等の多職種チームで実施	・保健師等の2次訪問率(%)	-	80	80	・民生委員訪問(1次)結果から、保健師等による訪問(2次)が必要となった世帯への訪問率 ※H29年度は菅野木・亀田・亀田東地区で実施(88%)	達成
4				・いきいきヘルシー講座の開催数(延)	21	25	29		
5	地域総務課	区民が安心して暮らせるよう、大規模な災害に対応するため区民との協働により地域防災力を向上させます。	・自主防災組織結成に向けた説明会の開催 ・自主防災訓練への支援 ・ジュニアレスキュー隊育成講習会の開催	自主防災組織の結成率(自治会数比%) (新規結成自治会数)	83 (4)	84 (2)	84 (2)	・結成率=自主防災組織結成自治会数/全自治会数 ・未結成自治会への啓発 ・地域に向向いての説明会の開催	達成
6	建設課	平成29年度の除雪対応を踏まえ、積雪時における生活道路の確保をより一層高めます。	・小学校区単位をモデルに、関係者の意見を聞きながら除雪作業後の円滑な二次対応に向けた改善計画を作成	計画の作成	-	計画の作成	改善計画を作成し今冬の除雪体制を構築	達成	